

20年以上の伝統

日本でも希有な地域寄席

# 大念寺 念々寄席

今月は18日(木)18時

人気の花形落語家

## 古今亭菊之丞 師匠

船橋市馬込町の浄土宗大念寺で、毎月中頃の木曜「念々寄席」が開かれている。同寺住職の大島祥明さんの発案で、20年以上前から毎月欠かさず執り行われ、全国的にもたぐいまれな地域寄席として有名だ。

大島住職によれば「当初は若手落語家の研鑽の場としてスタートした」とのことだが、今や若手真打ちの中でもダントツの人気を誇る古今亭菊之丞環境の中で育ったという。

6月は21日に江戸情緒たつぷり、人気の花形真打ち古今亭菊之丞師匠と三遊亭天どんさんが出演。会場には125

人を越す聴衆が集まった。野田市からやってきた石山かつ子さん(73)は「落語好き。全身、あらゆる手術をして、病気がちだが、笑いで生かしてもらっているようなもの」と、病気の素振りすら感じられないさわやかな笑顔で話してくれた。笑いは確かに病に効くようだ。菊之丞師匠は9月2日「芸暦二十周年記念公演」を三越劇場で開く。



念々寄席にご来場の皆様

▼東武野田線「馬込沢駅」徒歩12分。  
047-439-6547

承師匠ら実力派が毎回登壇する。客層は20歳代から80歳代以上の老若男女、地域だけでなく、遠方からも多くのファンが駆けつける。演目3題をたつぷり2時間掛けて口演。常設の寄席では1人がせいぜい15分程の持ち時間内で語るものだが、こ



古今亭菊之丞師匠

こでは一席が長講なので聞き応えがある。中入りに茶菓のもてなしもあり、木戸銭300円は当初から変わらぬ同寺の好意だ。「木戸銭の中には10円

●大島祥明住職の評判の著書『死んだらおしまい、ではなかった』は初版から9万冊を売り上げる静かなベストセラー。「死んだらどうなるの?」「どう生きるの?」などの問いに答える。同寺では大島住職のサイン入り本を購入出来る。



大念寺外観

▽『死んだらおしまい、ではなかった』(PHP研究所刊・定価1050円。問い合わせ03-3239-6257)

大島祥明

死んだらおしまい、ではなかった

2000人を感動させたおじいさんの不思議な話

故人の死後まで見守るのが、僧侶の役目です。

【死んだらどうなるの?】  
【どう生きるの?】  
【本当の供養とは?】

PHP研究所 定価 1,050円(税別)